

第2回 科学委員会を開催

3月1日、鹿児島市のサンプラザ天文館ホールにおいて、第2回屋久島世界遺産地域科学委員会が開催されました。

今回の委員会では第1回科学委員会における主な議論を整理した上で、①モニタリング調査の実施状況②ヤクシカワーキンググループの検討状況③山岳部における利用の検討状況④科学委員会の役割と体制を主な議題として検討が重ねられました。

ました。

【垂直分布モニタリング調査】

植生の垂直分布モニタリング調査では、調査区を2倍に広げた個所について過去の調査データとの比較ができるような調査、データ整理を行うべきなど留意点が委員から出されました。

【ヤクシカ対策】

ヤクシカの捕獲数が前年度を変わらないペースで進み生息頭数に減少傾向がうかがえないことや直近の生

息頭数の推定値に大きな幅があるため、生息頭数の推定方法について議論がなされました。調査方法に変更又は改良を加える場合は過去のデータと比較検討できるように調査方法を採用すべきとの意見が出され、これらの意見を踏まえて今後検討されることになりました。

また、里地でのシカの出没情報は少なくなつたものの、全島的な減少傾向がうかがえないことから、奥地でのシカの捕獲が課題として出されました。これについては、民有林と国有林境での捕獲が始められたこともあり、今後この捕獲状況を踏まえつつ、奥地での捕獲のあり方について1年かけて検討を進めることとなりました。

このほか、今後、奥地の捕獲を想定した場合、捕獲シカの埋設方法なども検討課題として上げられました。

【気候変動の影響に関するモニタリング調査】

森林生態系への気候変動の影響については植生の変化等を指標としています

屋久島の植物



シマイズセンリョウ (ヤブコウジ科)

九州南部以南に分布する常緑低木。樹高1〜2mで、よく分枝し横に広がる。屋久島では低山地の林縁に多い。葉脇から花序を出し白い小さな花を多数付ける。果実は径5mmほどの球形で黄白色、開花翌年の春先まで残っている。花期は3月〜5月。

が、委員からは、①昆虫や土壌生物も指標に加えてはどうか②気象条件などの基本的データを押さえて置くべき③冬の最低気温や海水温の変化も重要な指標となるなどの意見が出されました。

【山岳部における利用】

縄文杉の周辺整備に当たっては、現在、立ち入り制限を行っている北側デッキの解体・撤去や新設デッキの設置等に関する行政側の方針に対し、委員からは縄文杉の見せ方についてさまざまな意見が出されました。

また、将来の山岳歩道のあり方と

屋久島生態系モニタリング

屋久島北部の植生垂直分布調査(平成 22 年度)

●標高 800 ㍍プロット

耳崩の東山腹急斜面の広葉樹二次林(天然生林)。胸高直径が30㍍を超える大径木はない。かつてはスギの天然林であり、プロット内外にはスギの倒木や伐株が数多く見られる。局所地形は凸型斜面で、平均傾斜 34°、平均斜面方位は東向き、標高は 825 ~ 835 ㍍範囲。

【高木層】マテバシイ・アカガシ・ウラジロガシ・アカシデ・ユズリハなど混生。他にイヌガシ・エゴノキ、個体数は少ないがヒメシャラ・ハリギリ・ヤクシマオナガカエデ・カクレミノ・クロバイ・カラスザンショウなど出現。

【亜高木層】イヌガシ・シキミが多く、イヌノキ・ウラジロガシ・ユズリハ・ヤクシマオナガカエデ・ヒサカキ・ヤブニッケイなどが混生。個体数は少ないがリョウブ・アカシデ・クマノミズキ・スダジイも出現。

【低木層】サクラツツジ・ハインキが最も多く、ヒサカキ・サカキ・ウラジロガシ・イヌガシも多い。個体数は少ないがイヌノキ・カクレミノ・サザンカ・スダジイ・アセビ・ヤマグルマ・トカラヌツグも生育。

【草本層】植被率は5%程度と低い。サクラツツジ・ハインキ・シキミ・ヒサカキ・ウラジロガシ・イヌノキ・アセビ・サカキの稚樹やホソバコケシノブ・ベニシダ・キジノオシダ・コバノカナワラビ・チャボシライトソウ・マンリョウ・ヒメツルアリドオンなどが生育。スギの伐株が5個存在。

【特徴】アカガシ・サクラツツジ群集。かつては天然スギの生育地だったが、昭和50年代の伐採後は二次林となっている。特徴的な樹種としてアカシデ・ヒメシャラ・リョウブ等の島内の天然スギ林のギャップに出てくる先駆的な落葉広葉樹が見られる。

【5年前との比較】亜高木層のマテバシイ・ウラジロガシが高木層へと生育し、高木層のアカガシが被圧されつつある。低木・草本層はヤクシカの嗜好種が目立ってきた。



第2回科学委員会

松枯れ対策連絡協議会を開催

屋久島と種子島のみに自生し絶滅危惧種に指定されている「ヤクタネゴヨウ」を保護し、適切に管理していくため設置している「松枯れ対策連絡協議会屋久島支部会」が2月4日に開かれました。

これは、関係機関（国・県・町・研究機関・NPO等）による当年度の活動報告や松枯れの実態調査等をもとに、今後の連携した松くい虫等による被害木の除去や被害の防除に役立てようというもので、平成17年度からスタートしています。



屋久島支部会

- 各連絡先は次のとおり。
- 町農林水産課
Tel 43・5900(代)
- 当センター
Tel 42・0331
- ヤクタネゴヨウ調査隊
Tel 44・2965

ヤクタネゴヨウの屋久島における自生地は、西部の瀬切川から、国割岳西斜面、南部の破沙岳周辺および高平岳で確認されていますが、松食い虫による被害は現在のところ見受けられません。しかし、クロマツの被害は発生しており、ヤクタネゴヨウへの被害の飛び火が懸念されているところから、まずは南部の栗生・麦生地区および東部の楠川・小瀬田地区で食い止めることが重要との意見がありました。

皆さまにおかれましても、「松枯れゼロの島」に向け、「松枯れ一〇番」による松枯れ情報の提供を、町農林水産課、当センター、ヤクタネゴヨウ調査隊にお願いします。

屋久島森水開き開催される

3月4日、屋久島町のヤクスギランドを会場に「平成26年屋久島森水開き」が行われ環境省、林野庁、鹿児島県、警察、町消防団、ガイドの方々など関係者30人あまりの参加がありました。

当森水開きは公益法人屋久島

3月4日、屋久島町のヤクスギランドを会場に「平成26年屋久島森水開き」が行われ環境省、林野庁、鹿児島県、警察、町消防団、ガイドの方々など関係者30人あまりの参加がありました。

観光協会が開催、屋久島の本格的な登山シーズン到来を告げるとともに入山者の安全を祈願して開催されたもの。当森林生態系保全センターも安全の確保と指導、併せ登山マナーの指導に取り組んで参ります。

縄文杉北デッキ撤去のお知らせ

平成5年12月世界自然遺産に登録となり、多くの方々が縄文杉を訪れるようになりました。このため根株を踏みしめるなど縄文杉へかかる負担が大きくなったことから、周辺の自然維持地域の保全を目的として平成7年度に縄文杉デッキが設置されました。

平成24年11月縄文杉正面の大枝の付け根に腐れが見つかり、デッキの一部立入規制等を行うとともに、ケーシングにより安全確保を図ってきたところです。

この度、安全確保を図ることを優先に、北デッキ（図面参照）の撤去をおこなう運びとなりました。

工期は3月24日までを計画しております。登山者の皆さま方にはご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力の程お願いいたします。

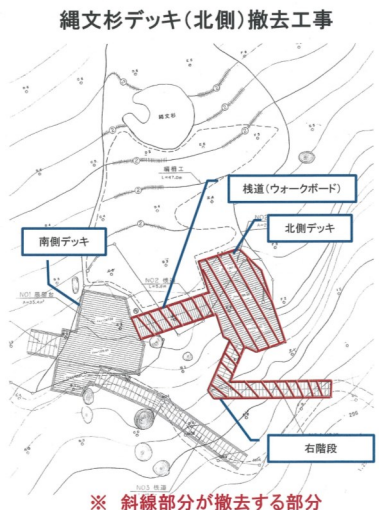
縄文杉デッキ等の解体撤去工事のお知らせ (北側デッキ及び階段、棧道)

工事期間：2月末～3月24日
発注者：九州森林管理局

縄文杉北側デッキ等の解体撤去工事を行います。工事期間中、現地にて撤去作業が行われますので、登山者の皆様には、ご協力をお願いします。

現在利用中の南側デッキについては、これまで通り工事の間も使用できます。

屋久島世界遺産地域連絡会議
環境省、林野庁、鹿児島県、屋久島町



森水開きの神事